

過疎の進む町に移住する若手創業者を支援し、伝統木工家具の製造と職人育成を実現

下市木工舎 市（奈良県）

事業者は、吉野杉を用いたデザイン性の高い家具の制作とその職人を育成するための工房を創設

1. 相談のきっかけ

- ・地域おこし協力隊として奈良県と吉野郡下市町から支援を受けていた。
- ・独立開業に向けて主に経営面で不安を抱いており、特に創業に関すること全般について相談したいという希望があった。
- ・希望を聞いた県の産業・雇用振興部をから、案件支援への協力要請があり、当拠点にて相談することとなった。

2. 課題整理・分析

【強み】

兵庫県で家具職人として3年半修行しており、デザイン面も含め高い加工技術を有する。

【課題】

- ・経営ノウハウが無い。特に、計数管理を含めた、経営知識全般を補完する必要があった。
- ・経営目標を明確化すること
- ・経営目標に基づき、資金計画を含めて、創業のための事業計画を作成すること

3. 解決策の提案

- ・当拠点から、経営目標の設定や資金計画を含む事業計画策定の必要性を説明。
- ・また、こうした計画作成にかかる具体的な考え方や手順を助言。
- ・経営目標の明確化や計画策定についての助言を進めつつ、企業形態別のメリット・デメリットを説明。想定する事業内容を整理し、個人事業主での創業を推奨・提案した。



4. 成果

- ・個人事業として「下市木工舎 市」が順調にスタート。
- ・会計知識がなく不安とされていた計数管理については助言によって、資金計画をはじめとする事業計画の作成が進み、今後の経営判断に使用できる数的基準が明確となった。
- ・事業開始後、新たに4人の弟子を迎え、過疎化が進む地域に若者が集う場ができ、技能伝承の新たな取組が開始された。
- ・現在は、地域の伝統特産品である吉野杉を使った家具の生産がスタートし、メディアを通じた広報や展示会出展などによって認知度向上や話題の提供が進み、伝統特産品の情報発信によるさらなる地域貢献が期待される。

